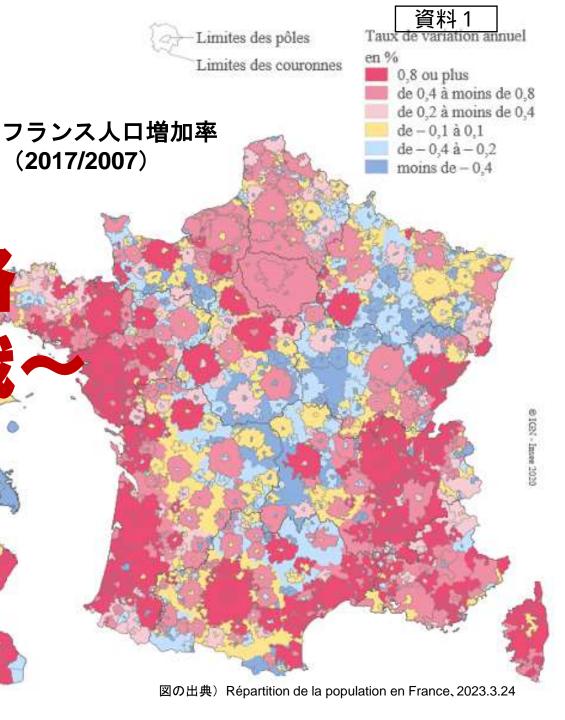
2024年11月18日 国土審議会推進部会 地域生活圏専門委員会 地域経済WG

> 地域生活圏の モビリティ戦略 ~フランスの挑戦

> > IBS /計量計画研究所 理事 神戸大学客員教授 博士(工学) 牧村和彦





フランス・モビリティ基本法(LOM):5年間で2兆2千億円の投資計画

(2019年12月)。交通基本法(LOTI、1982年)を刷新、「日常の交通手段の大幅な改善、すべての市民とすべての地域において、より簡便、安価かつ、適切な交通を実現する」ことを目的に、新しい移動サービスを促進し、誰もがどこでも移動できる社会、2050年までに陸上交通のカーボンニュートラルを目指すもの

参考)フランス:世界初の「MaaS法」の衝撃 フランスが1兆円超えの大型投資、日経クロストレンド、2020年1月10日

「移動権」はフランス共和国の約束の中心にある

新しいモビリティサービスを促進し、 すべてのフランス国民の移動を可能にする

移動を取り巻く「空白地域」をなくし、全国でマイカーに代わる交通手段を保証



重要政策の一つが、 地域生活圏のモビリティ計画 (2種類ある!)

都市部:PDM

ローカル:PDMS(簡易版)

Les mesures clés de la #LoiMobilités



Les transports sont essentiels dans notre vie quotidienne : pour se former, after au travail ou retrouver un emploi, se seigner. Le droit à la mobilité est au couur de la promesse républicaire.

Mais aujourd'hui, la politique des transports n'est plus adaptée sux sialités du pays, sux becoins et aux attentes des citoyens, notamment coux les plus éloignée des grandes métropoles :

- Le manque de moyens de transports dans de nombreux territores crée un sentiment d'injustice et une forme d'assignation à résidence. Aujourd'hut, ce sont sussi des millions de nos concitayens qui n'ent pes d'autre solution pour se déplacer que l'utilisation individuelle de leur voiture. Cette dépendance pèse sur le pouveir d'achat.
- L'urgence environnementale et climatique appollo à se déplacer différemment.
- Les investissements ont été trop concentrés sur les grands projets, notamment de TGV, su distriment des bésoins du quotidien.
- Les transports vivent aussi une révolution de l'innovation et des pratiques : de nombreuses offres nouvelles se développent et sont autant de solutions qui apparaissent.

Il faut y répondre par une transformation profonde de notre politique pour les mobilités. Après la réforme du système farroviaire portée en 2018, la LOI MOBILITÉS en constitue le 2-avoiet.

La LOX MOBILITÉS répond à une ambition fixèe par le Président de la République :

AMÉLIORER CONCRÉTEMENT LES DÉPLACEMENTS AU QUOTIDIEN, POUR TOUS LES CHOYENS ET DANS TOUS LES TERRITOIRES, GRÂCE À DES TRANSPORTS » FACILES. - COÛTEUX ET » PROPRES.

Pour relever cette ambition, la LOI MOBILITÉS repose sur 3 piliers :



INVESTIR PLUS ET MIEUX DANS LES TRANSPORTS DU QUOTIDIEN



FACILITER LE DÉPLOIEMENT DE NOUVELLES SOLUTIONS POUR PERMETTRE À TOUS DE SE DÉPLACER



ENGAGER LA TRANSITION VERS UNE MOBILITÉ PLUS PROPRE

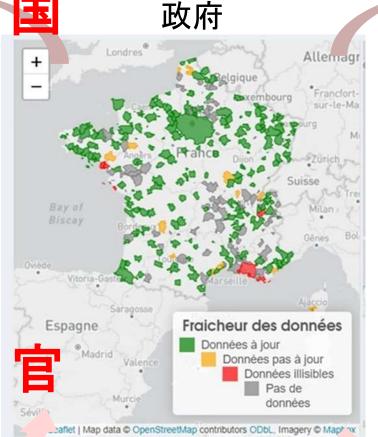
Le projet de loi s'organise en 5 chantiers : apporier des solutions de mobilité à tous et dans tous les territoires ; accélérer la croissance des nouvelles solutions de mobilité ; réussir la transition écologique des mobilités ; investir au service des transports du quotidien ; et assurer le bon fonctionnement des transports.

地域



サン=テティエンヌ (人口17万)





出典) https://transport.data.gc_v.fr/stats

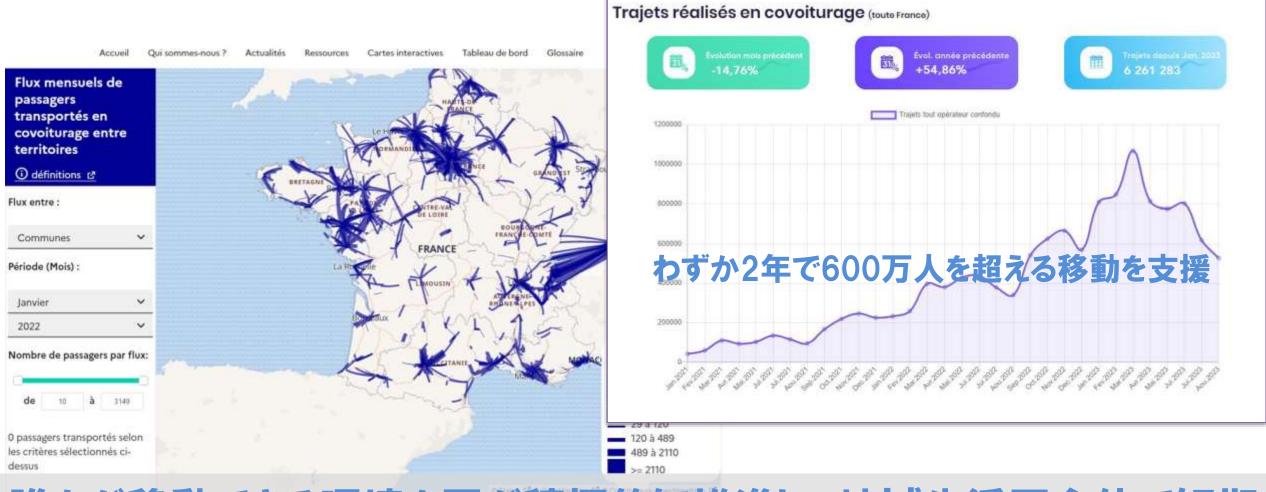


ルーアン(人口11万)



循環するデータで地方創生: モビリティ基本法により、公共交通だけでなく、カープー

ル、自転車シェアリング、路外駐車場、充電ステーションなど様々な移動情報の一元化を実現。データの品質マネジメント、データガバナンスを国が推進し、地方を強力に支援



誰もが移動できる環境を国が積極的に推進し、地域生活圏主体で短期

に実現:フランス式ライドシェア(相乗り)に年200億(×5年)を国が2021年から投資

参考)牧村和彦(2022):パリ市街も激変! 世界初「MaaS法」から3年、フランス現地調査、日経クロストレンド

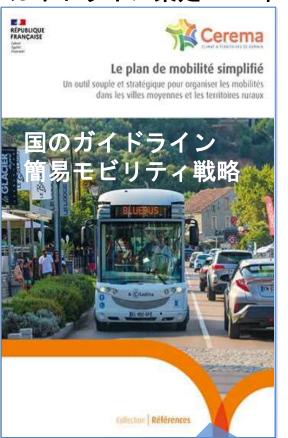
参考)牧村和彦(2023):「ライドシェア解禁」はフランスから学べ成長著しい背景には"ボーナス制度"があっ

た!2023年10月23日、メルクマール

ルーラルのモビリティ計画(仏)

- 取り組みの概要
- フランスでは都市のモビリティ計画(PDM)と農村部等のルーラルのモビリティ計画(PDMS)の2種類の計画と実践の枠組みが存在
- 地域生活圏を対象に2万~10万 人規模に適用可能なモビリティ計 画を策定し、事業を推進
- 2015年に最初の試行(PMRU)が なされ、2021年頃からガイドライン と合わせて、計画策定を国と地方 連携し推進
- 7つの地域生活圏(右図)を先行 モデルプロジェクトとして実証し、 2024年には100~200の計画が策 定される見通し

ガイドライン策定2021年



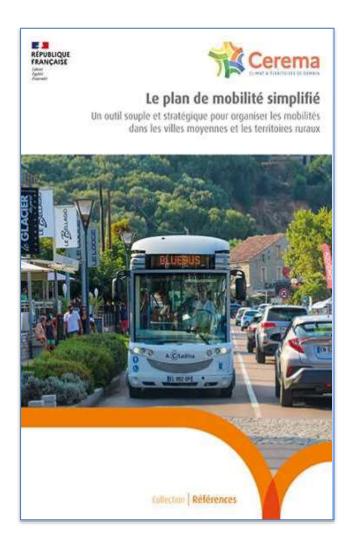
先行モデル地域生活圏へ適用2021年~



※スピーディな展開

100~200の地域生活圏で計画策定中(2023年~) 根拠法:LOM法(2019年新設)、交通法典L1214-36-1

ガイドラインの構成



はじめに		7
1.	簡易モビリティプランとは?	10
1.1.	地域のニーズに適応できる柔軟な法的枠組み	10
12	地域戦略を策定するための柔軟で統一的なアプローチ	
	モビリティについて	14
2.	中規模都市におけるモビリティの主要要素	
	および農村部	18
21.	地方と中規模都市におけるモビリティの課題	18
22	持続可能なモビリティへの挑戦	21
23.	モビリティの課題に直面し、構造化された分野横断的な対応を迫られる	26
3.	簡素化されたモビリティ・プランを策定するには?	28
3.1.	プロセスの主な段階	28
32.	簡易モビリティ計画」アプローチの枠組み	33
3.3.	簡易モビリティプランのガバナンス	39
3.4.	協議、参加、コミュニケーション	44
4.	プランの内容は?	57
4.1.	診断	57
42	戦略	68
4.3.	行動計画	73
4.4.	モニタリングと評価	81
5.	付録	87
5.1.	書誌	87
52	略語と頭字語のリスト	92
5.3.	交通法における簡易移動計画	94
5.4.	農村モビリティ・プランと簡易モビリティ・プランの比較	96
6.	詳細目次	97

挑戦!

分野 横断

簡易モビリティ計画とミッション



_

具体的な地域生活圏のモビリティ計画策定例

クール=ド=ロワール共同体の 簡易モビリティ計画



49村の共同体、約4万人で構成 (65歳以上割合35.1%)



クール=ド=ロワールにおける モビリティ・基本方針

- ▶ モビリティは、地域社会の幸福と地域の魅力にとって重要な要素である。人口維持に貢献し、いくつかの目的を達成することを目指している:
 - ✔ 移動手段を提供することで、孤立している人々や困難な状況にある人々との連帯を深める:
 - ✓ 仕事、健康、店、文化、レジャーなど、日常的なサービスへのアクセスを容易にする。
 - √ 持続可能なモビリティ・ソリューションの開発で環境問題に対応
- モビリティ政策と市民に提供されるサービスを構造化するための枠組み文書、「簡易モビリティ計画」 の策定。











自動車保有率86.2% 自動車利用率78.0% 相乗り3.3%、公共交通1%

クール=ド=ロワール共同体における 簡易モビリティ計画の承認までのプロセス

9ヶ月!

診断

ATELIER PARTICIPATIF DIAGNOSTIC TERRITORIAL

行動計画

ATELIER PARTICIPATIF PROGRAMME D'ACTIONS

評議員会

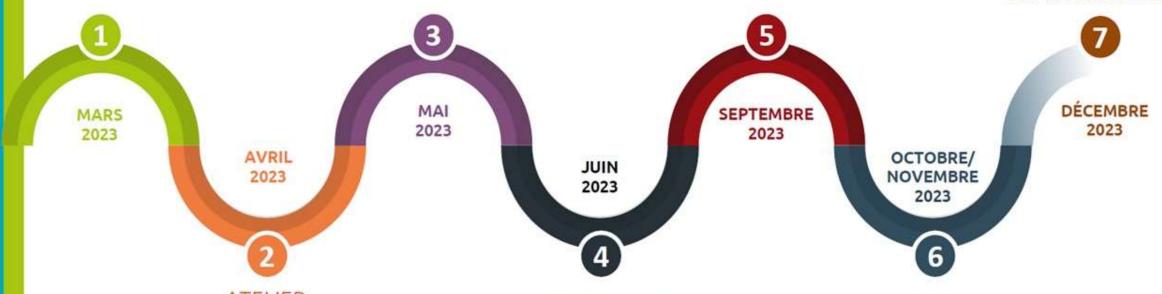
承認

ARRÊT DU PLAN DE MOBILITE **EN CONSEIL** COMMUNAUTAIRE

地域協議会

承認

APPROBATION EN CONSEIL COMMUNAUTAIRE



ATELIER PARTICIPATIF **BESOINS ET ENJEUX**

ニーズ・課題

VALIDATION DU **PROJET** PAR LA COMMISSION AMÉNAGEMENT 委員会承認

PRÉSENTATION DU PLAN DE MOBILITÉ

プレゼンテーション 07/119

地域診断に基づく15のアクションプラン:

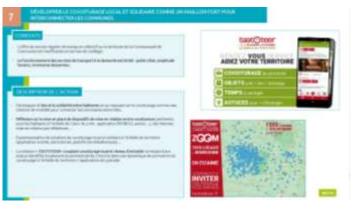
部署横断の行動投資計画。交通手段の提供が目的ではなく、 誰もが移動できる環境構築が目的。毎年の事業予算も計画内に明記。 6年間



▼アクション6:医療MaaS推進



▼アクション7:デジタル×相乗り推進



ルーラルのモビリティ計画(仏)の特徴

- 市町村の行政界を超え、地域生活圏を計画及び事業対象
- 自動車交通、公共交通、徒歩、自転車、相乗り、駐車場、新しいモビリティサービス、物流などの人、モノ、サービス全てを対象とした事業計画(計画と事業が一体、データも対象)
- 計画のための計画ではなく、事業推進のための計画(事業期間は6年間)
- ガイドラインが全国展開、普及の重要な役割を果たしている(良質な計画なくして、良質な事業なし)
- 都市のモビリティ計画(PDM)に対して、KPIの簡略、手続きの柔軟対応、 策定期間の短縮(1~2年)、計画のための予算の縮減(3~6万ユーロ、 都市は平均30万ユーロ)など簡略化
- 国の研究機関(CEREMA)がガイドラインづくり、計画作成、作成支援、技術アドバイスなどの伴走者として、地方を全力サポート